第17回インテリアプランコンテスト一次選考の結果発表

今年で第17回をむかえますインテリアプランコンテストの一次選考の結果発表です。
※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

当社が推し進めている、既存のライフスタイルでの住居空間(学生・独身・新婚・ファミリー)ではなく、

『もっと自由で楽しめる空間を作りたい』との思いを合言葉とし、

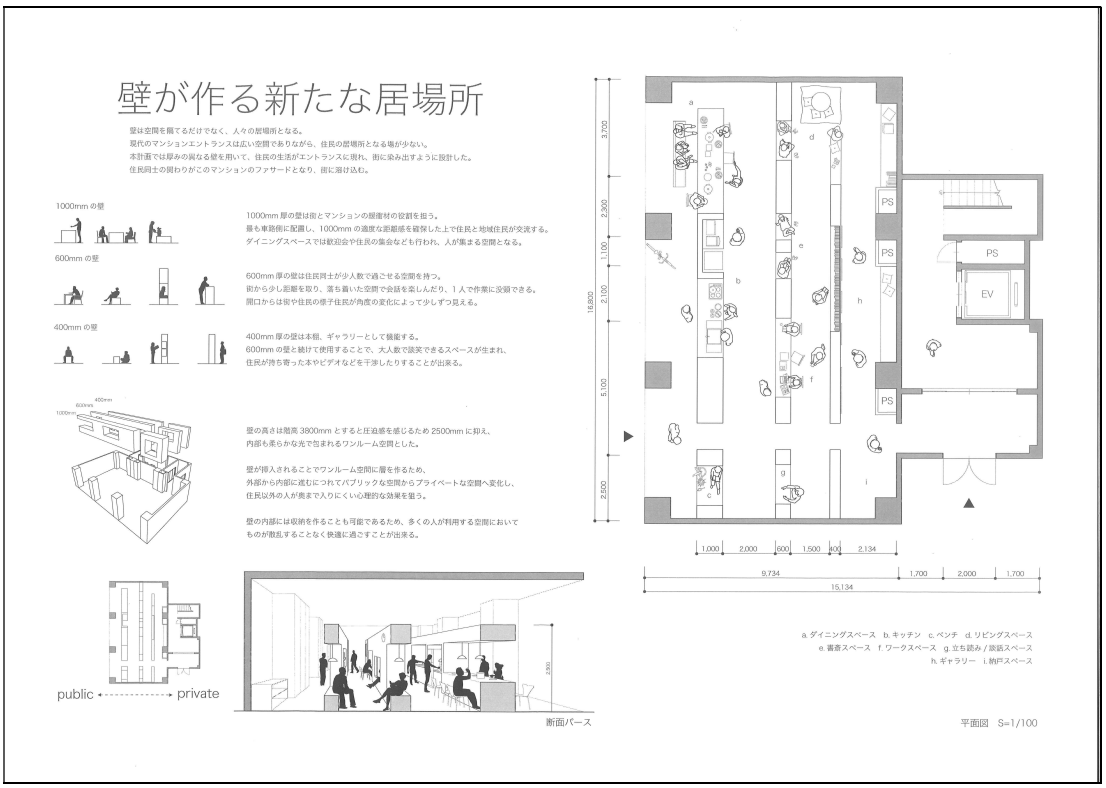
より個人の価値観・ライフスタイル(バイク・ペット好き等)を前面に押し出した自由な発想による
作品での、沢山の御応募まことに有難うございました。

一次審査(図面審査)では応募総数48作品の中から10作品が選ばれ、二次審査(模型審査)で
最優秀賞(1名)・優秀賞(2名)が選ばれます。
一次審査選考通過者の皆様には、後日連絡を取らせていただきますのでお待ち下さい。

一次審査通過者10名

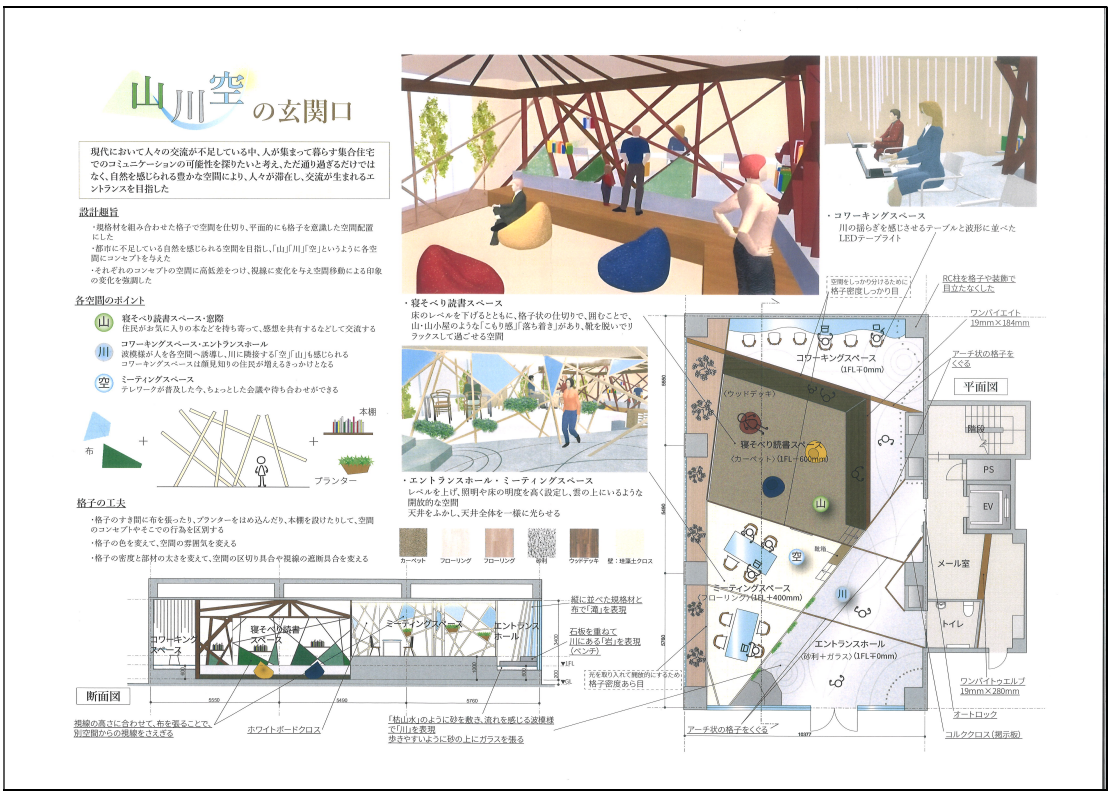
京都府立大学　植木慧さん　の作品

作品名:壁が作る新たな居場所



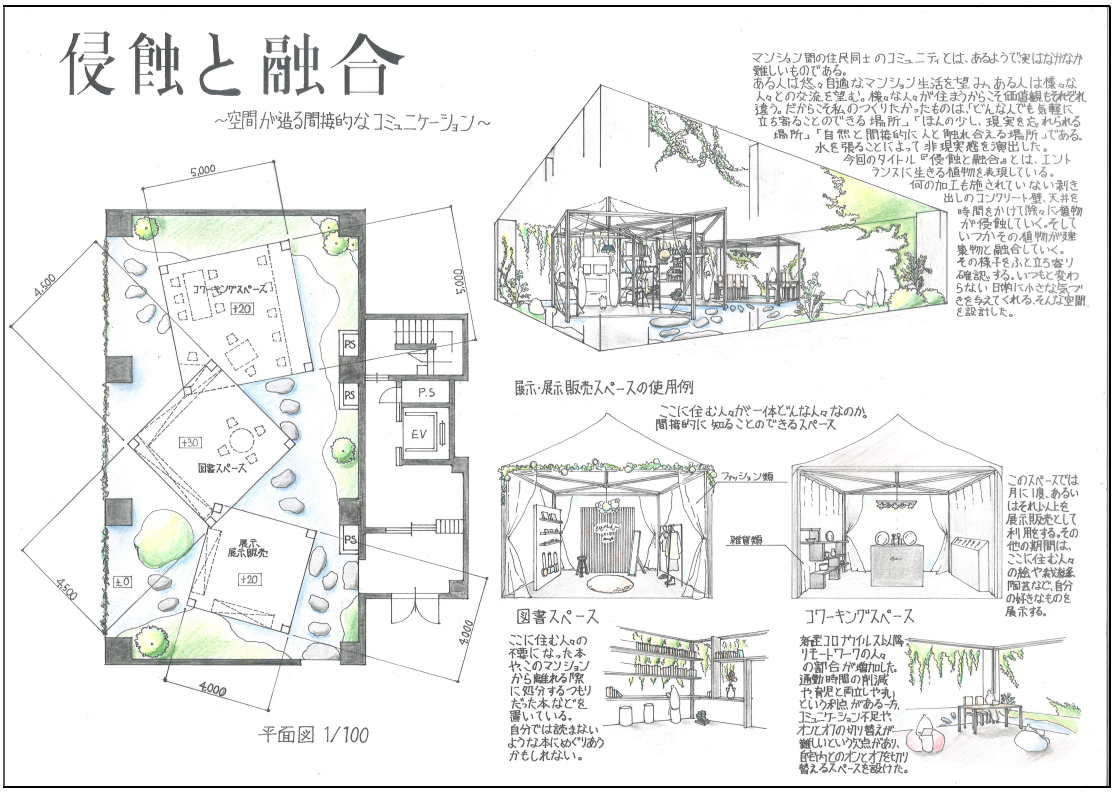
大阪市立大学　松本恵利香・北村和津さん　の作品

作品名：山川空の玄関口



修成建設専門学校　有末妃那さん　の作品

作品名：侵蝕と融合

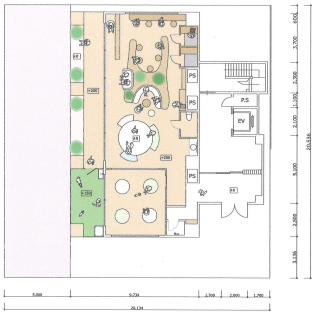


大阪工業技術専門学校　奥村夏都絵さん　の作品

作品名：Three　spaces

このエントランスには、３つのエリアに分かれています。
の空間はワークスペースになっています。また、右側には２つ小さな個室があります。この部屋は、例えば一人で集中して作業を行いたいときや、リモートワークで自分の部屋でも家族がうるさくて集中できないときなどに使うことができます。さらに周りに本棚を置いて住人たちと共有して読める本を置いています。外から見える位置にも置いているのでテラスでも読みたくなるようになっています。
また、 のスペースは交流スペースになっています。子供たちが遊べるスペースや住む人たちと交流ができるスペースになっています。ワークスペースの机とソファが繋がっており、たくさんの人と交流できるよう円を囲うようなソファと２人ほど座れるソファを設けて自由にくつろげる空間にしました。
最後に のスペースはペットたちと交流できるスペースになっています。室内の方は、クッションを設けてペットたちと住人たちが、のびのびと交流ができる空間になっており、大きな窓を設けることで他のエリアとのつながりを感じられる空間になっています。また、屋外には芝生を敷いてドックランのようなペットが自由に遊べるようにし、ここの住人でない通りすがりの飼い主とペットとも交流ができると考えました。さらに、遊んだ後や散歩した後に自分たちの家に帰る前にペットをきれいにしたい時のためのペット用シャワー室を設けました。

Concept
このエントランスのコンセプトは、３つの空間をコンセプトに、住んでいる人が必要とする空間意識して計画しました。住人たちがのびのびと自由な時間を過ごすことができ、また、通りすがる人に魅力を感じてもらえるような少し個性的な空間にしました。このマンションの設定は、ペットを可能とし、住む人は家族が多く年齢層が幅広くなっていると設定しました。



平面図(S＝1/100)

大阪工業技術専門学校　山本愛実さん　の作品

作品名：待ち合わせ場所となるようなエントランス

住人は本好きの大学生や若い世代と仮定し、設計しました。
一人暮らしだと一人でいることが多くなり、人とのコミュニケーションを取る機会が減ってしまいがちなので、住人同士が集まれる場所を計画しました。
また本好きの人が集まることで新しいコミュニティが生まれ、趣味を共有し合える場所にもなります。
住人たちだけの秘密基地のような、特別な空間となっています。

天井に間接照明をつけ、温かみの感じる空間としました。
交流スペースとは段差を付けて、住人の専用スペースという区切りをつけました。
本棚は床や天井と同じ木材を使い、統一感のある空間に仕上げた。

交流スペースの壁を曲線とすることで外との一体感をつくりました。
床は屋外スペースと同じタイルにしました。

窓から植栽を鑑賞しながらリラックスできる空間となっています。

郵便、宅配ボックススペースにもベンチと椅子を配置し、ちょっとした待合や宅配の人が少し休憩できるように考えました。
間接照明で壁をぼんやりと照らし、落ち着きのある空間に仕上げました。

「コンセプト

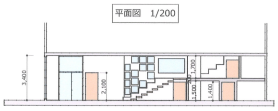
町のシンボルとなるようなエントランスを計画しました。
屋外スペースにはウッドデッキを設け、段差をつけることでベンチのように活用することができます。これにより誰かと待ち合わせをしている時など腰をかけて休息したり、地域の人が散歩の途中にふらっと立ち寄ることができます。町に開けたエントランスをつくることで自然と人が集まってきて会話が生まれると考えました。
マンションの住人用のくつろぎスペースは段差のついたソファを配置し、外と目線が合わないように、道路側の窓の高さを考慮して、本棚を置いて仕切りをつくりました。交流スペースには大きな開口を設けて外の人とコミュニケーションがとれるようにしました。プライベートも考慮しつつ、町にも溶け込めるロビーとなっています。

平面図（1/100）

大阪工業技術専門学校　大谷萌華さん　の作品

作品名：開と閉

平面図　1/200



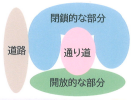
断面図　1/200

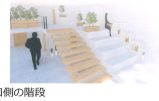
コンセプト

私が提案するエントランスはワークスペースを備え付けたエントランスです。エントランスといえばソファがあって、机があってあまり使う人が少ないのではないかと考えられます。マンションに住んでいる人は家族も住んでいそうですがひとり暮らしの社会人や学生を考えました。新型コロナウイルスの影響で自宅ワークが多くなり、マスクをとった今でも家でできる仕事は家でするような環境になったと考えられます。そのようなことから、自宅で集中できないときに使えるようなワークスペースが近くにあれば役に立つのではないかと考え、ワークスペースにしました。
集中できる個室のワークスペースを11部屋作り、部屋の高さを低めにしました。ワークスペースの外には階段を作り、本や植物を置きました。どの階段でも座って読書ができたり、話しをしたりなど階段を活用できるようなデザインにしました。
また、入り口側を全面ガラスにし、ワークスペースとは反対に開放的にしました。大きな木を植え、その近くには椅子を置き階段だけではなく、ちょっと休めるような場所を作りました。ワークスペースの空間と外の空間に差を出しました。

ダイアグラム

開放的な部分と閉鎖的な部分を作り、差を出して、集中して仕事をしたい人も友達やマンションの人と会話する人も使えるようにしました。





入口側の階段
本棚を作ってその上に座れるように

道路側の階段
本棚を作って窓を一面に作り光が入るように

入口の窓
全面をガラスにして開放感が出るように

中央の階段
一階部分のワークスペースに行ける

ワークスペース
部屋を一階部分を7部屋、二階部分を4部屋

大阪工業技術専門学校　廣岡紗綾さん　の作品

作品名：SENSE　OF　DISTANCE

大阪建設専門学校　久保翔大さん　の作品

作品名：水が織りなすエントランス

水が織りなすエントランス

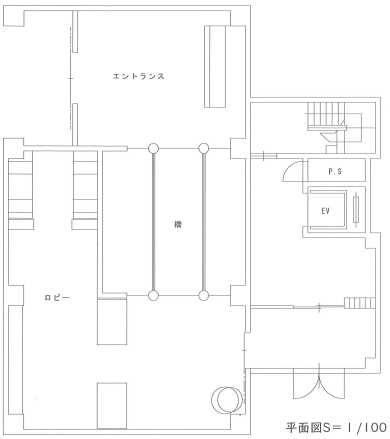
“水”どこか吸い寄せられる魅力がある。
視覚的、聴覚的、感覚的な部分までも癒しを与える
そんなエントランス。

・コンセプト

冒頭でも出した“水”を100%で演出したい。ではどう見せるのか。
水が上から落ちてくる様というのは誰もが一度は見てしまう。
落ちる水の透き通った青には光が反射し、耳当たりの良い心地よさで
包んでくれる、マンションの顔として恥じないエントランスです。

・エントランス

入口を入れば、防犯上の
意味も兼ねカウンター前を
通るようにし、煌びやかな
滝を横目に橋を渡る。
そんな動線を描きました。
（床：大理石で豪華に）



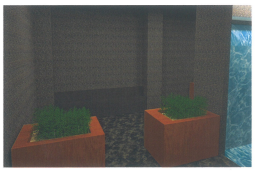
平面図S＝1/100

・ロビー

ロビーでは、来客者にも対応できる様
スペースを設けました。スペースは、
2席あり、囲われる形になっているので
他のマンションの住居者が通っても見え
ない様になっています。
（完全な壁ではないが、観葉植物である
程度の視覚を完備）

・休憩スペース

ベンチを完備。
住居者、来客者との待ち合
わせの際、また帰宅時等、
少しゆっくりしたい時など
水の音を聞きながら休める
安らぎのスペースになれば
という気持ちで作りました。



・住居者のニーズ

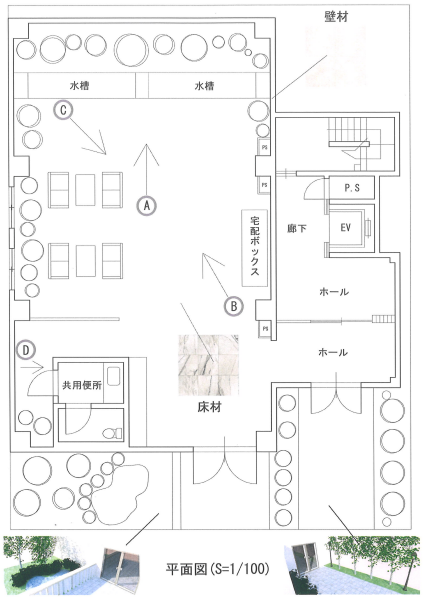
一貫して黒で仕上げた今回のエントランスは、“水”を題材にと考えた、利便性の高いスペースを完備しました。
共用施設の維持管理費は、住居者負担ということもあり、より良い物をと重視されることもまた一つ。その中で、住居者がマンション
エントランスとして恥じない、このエントランスならお金を払っても良いと思えるそんな、住居者のニーズに応えられるエントランスロビーです。

大阪建設専門学校　西村空さん　の作品

作品名：癒しと利便性

癒しと利便性

居心地の良さと利便性をテーマにしてプランニングをしました。
壁・床等には高級感のある素材を使用しています。



平面図(S=1/100)

Ⓐ

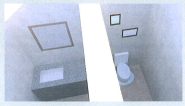
Ⓑ

エントランス奥には多くの植物と水槽を設けました。ソファーの後ろ等にも植物が設置されており、心と体が癒される居心地の良い空間になっています。窓からは外からの温かい光が差し込みます。

Ⓒ

ソファーの対面に宅配ボックスを設置しました。景観・居心地の良さだけでなく、利便性も確立したエントランスになっています。入口から少し離れた位置にあるので、防犯性も高いです。また、デザインにも一工夫加えているため、インテリアの邪魔にもなりません。

Ⓓ



入口左には、共用便所を設けています。エントランスで人を待っている間でも、わざわざ他の場所まで移動する必要がありません。エントランスの雰囲気を壊さない清潔感・落ち着きのある共用便所になっています。

大阪建設専門学校　松原睦世さん　の作品

作品名：都会のビオトープ付きマンション

都市で自然と共生する暮らし

ビオトープとは bio（生命）とtopos（場所）を合わせた造語で、意味は「生き物の住む場所」。

整然とした公園と違い、ビオトープは里山の原風景を彷彿とさせる。やすらげる空間なだけでなく、生態系を間近に見ることができて子どもの教育にも良いとされている。

マンションの共用部にビオトープを造る事で、物件の価値と希少性を高めることができるのではないか。

ここでは、人工的な水深30～50cm程度の小川に、メダカ、フナ、エビやタニシ等の水生生物と水草を入れる。

エビやタニシが水底を耕し、魚の排泄物が微生物に分解されて植物の養分になる。

こうして、安定した生態系となる。

都会のビオトープ付きマンション

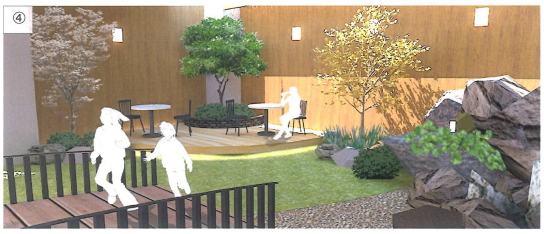
平面図　S=1/200

水は循環させ、天井に大型の植物育成ライトを埋め込む。
システムの維持はソーラーパネルから得た自然エネルギーを中心とする。

▲小川にはメダカやフナが見られる。子どもたちは生き物を観察し、追いかけて遊ぶ。

▲水の流れる場所と溜まる場所をつくると、生物の様子も変化する。水がたまる場所には浄化装置を設ける。

▲天井に設置されている大きな植物育成用ライトの光を浴びて、樹や草花も成長していく。



▲テラスのようになっている部分に椅子とテーブルを設置し、ゆったり過ごせる空間にする。

屋内ビオトープのすすめ

ビオトープには太陽光が必要だとも言われている。
たしかに、屋外で日光を受ける姿の方が自然に近い。
ただし、その場合は徹底した管理とメンテナンスが必要となる。
例えば、夏場の直射日光で水温が上がり水生生物が死滅することもある。冬は水面が凍ってしまう。
日光を浴びるとアオミドロが発生する恐れもあり、
カラスなどが魚や虫を捕食してしまうこともある。

屋内ビオトープの場合は、温度環境を比較的保ちやすく、
鳥などによる被害も心配しなくてよい。
都市にビオトープを設ける場合、人の快適性を保った上で、
どのように自然と共生していくかが課題となる。
すべてを自然と同じにすることはできないが、都市で生活しながら
自然に触れ合う生活スタイルとして、ビオトープ付きマンションを
提案したい。

以上１０作品